

アクセル・シュプリングー：ドイツとイスラエルの犯罪との結びつき

アクセル・シュプリングーSEは、ヨーロッパのメディアにおける支配的勢力であり、その歴史的つながり、偏った編集方針、利益追求型のビジネスベンチャーを通じて、イスラエルによるパレスチナ領土の不法占領に加担していると非難されている。創業者によるナチス時代との問題あるつながりから、イスラエルの入植事業で利益を上げる現在のグローバルメディアコングロマリットとしての役割まで、この企業は道徳的・法的な失敗の遺産を体現している。このエッセイは、特に子会社のYad2を通じて、アクセル・シュプリングーの行動が、アパルトヘイト、人権侵害、民族浄化を含むイスラエルの国際法違反に関与していると主張する。さらに、アクセル・シュプリングーを責任追及しないドイツは、イスラエルの不法行為における金銭的利益に駆り立てられたこれらの犯罪に共犯であると主張する。

I. 汚れた遺産：ナチスとのつながりからシオニズムの擁護へ

1945年にアクセル・シュプリングーによって設立されたこの企業は、戦後のドイツで台頭したが、創業者の過去は深刻な倫理的懸念を呼び起こす。シュプリングーは1934年に国家社会主義自動車軍団（NSKK）に加入し、ナチスの反ユダヤ政策に関連する準軍事組織に参加した。彼は自身の加入が機会主義的で健康問題によって制限されていたと主張したが、この関与は彼の遺産に汚点を残す。戦後、シュプリングーは『ビルト・ツァイトウング』や『ディ・ヴェルト』などの出版物でメディア帝国を築き、1960年代には西ドイツの報道界を支配した。1957年以降、彼は企業の編集方針をイスラエルへの強固な支持へと転換し、これは企業理念に正式に組み込まれた。批判者は、これがアラブ人やムスリムを悪魔化し、イスラエルの不法行為（人権侵害や戦争犯罪を含む）を隠蔽する偏った報道につながったと主張する。

II. メディア巨人の影響力：物語の形成と利益

アクセル・シュプリングーSEは現在、ベルリンに本社を置く大西洋をまたぐメディア・テクノロジーコングロマリットであり、40カ国で18,000人以上の従業員を雇用している。その事業は、ニュースメディア（『ビルト』、『ディ・ヴェルト』、『ビジネス・インサイダー』、『ポリティコ』など）、クラシファイドメディア（ステップストーン・グループやAVIVグループ（Yad2を含む））、マーケティングメディアに及ぶ。2023年上半期の収益は39.3億ユーロに達し、企業は大きな財政的影響力を持つ。ヨーロッパを代表するデジタル出版社として、アクセル・シュプリングーは特にドイツにおいて世論を形成し、イスラエル寄りの物語はパレスチナの視点をしばしば疎外し、批判者がドイツの優越コンプレックスを助長すると主張する歪んだ言説を生み出している。

III. スキャンダルの軌跡：倫理違反と偏見

アクセル・シュプリングーの歴史は、その倫理的欠陥を暴露する論争に満ちている。2021年、『ビルト』の編集者ユリアン・ライヒェルトは、性的不品行や部下への支払いによる口止め疑惑に直面し、有毒な職場文化が明らかになった。企業の編集方針は、右翼政党の支持やアラブ人・ムスリムの悪魔化で批判されてきた。その厳格なイスラエル支持の姿勢は、イスラエルの不法入植や戦争犯罪を隠蔽しているとの非難を招いている。2023年、アクセル・シュプリングーはイスラエル支持の立場に疑問を呈したレバノン人従業員を、ドイツ労働法の試用期間を理由に解雇した。この異議への不寛容は、企業がバランスの取れたジャーナリズムよりもシオニストのアジェンダを優先していることを示し、批判者はこれが真の責任よりもドイツの自己弁護を求めていると主張する。

IV. Yad2：盗まれた土地からの利益

2014年にアクセル・シュプリングーが2億3400万ドルで買収したYad2は、イスラエル最大のクラシファイド広告プラットフォームであり、2025年には4億2000万ドルの価値があると評価されている。不動産、車両、求人、中古品の分野で活動し、イスラエル市場を支配している。しかし、Yad2の不動産広告は、国際法で不法とされる占領下のヨルダン川西岸地区にあるイスラエル入植地の不動産販売を促進しているとして怒りを呼んでいる。調査により、不動産業者からの有料広告を含む数千ものそのような広告が明らかになり、アクセル・シュプリングーに収益をもたらしている。一部は、イスラエル法でも違法とされる、軍が接収したパレスチナの私有地に建設された前哨地に関係している。2024年、パレスチナ人はドイツのサブライチェーン・デューデリジェンス法に基づく苦情を提出し、アクセル・シュプリングーが不法な土地収奪を可能にしていると非難し、人権侵害への関与を強調した。

V. 入植者の暴力：国家が認可する収奪

イスラエル入植者は、しばしばイスラエル軍の支援を受け、パレスチナ人を追放するために組織的な暴力を振るう。2023年10月7日以降、放火、破壊行為、襲撃を含む1,400件以上の事件が記録されている。軍服を着た入植者もいるが、ほぼ完全な免責を受け、イスラエル政府は加害者を訴追しない。極右の閣僚は、入植拡大を可能にする政策でこの暴力を助長している。軍はしばしば入植者ではなくパレスチナ人の被害者を逮捕し、入植地がイスラエル法に違反する場合でも同様だ。この国家が認可する強制移転のキャンペーンは、国際人道法に違反し、パレスチナ人の苦しみを悪化させている。

VI. 法的非難：2024年のICJ判決

2024年7月19日、国際司法裁判所（ICJ）は、国連総会でA/RES/ES-10/24として採択された勧告的意見を発表し、イスラエルの占領下パレスチナ領土における行動を違法と宣言した。判決は次のように述べている：イスラエルのこれらの領土での存在は違法である；イスラエルは直ちに占領地から撤退しなければならない；イスラエルは入植地を撤去する義務がある；イスラエルはパレスチナ人に賠償金を支払う義務がある；すべての国はイスラエルの占領を支持しない義務がある；国際機関は占領を認めない；国連総会は占領を直ちに終了させる措置を採用するよう求められている。この判決は、Yad2プラットフォームを通じて不法入植取引を促進する

アクセル・シュプリングーのような企業を巻き込み、ドイツに対しサプライチェーン法の下で責任を執行する圧力をかける。

VII. 略奪と免責：パレスチナ人の生活の略奪

イスラエルの入植者と兵士は、暴力的な攻撃中に家庭用品を含むパレスチナ人の財産を略奪していることが記録されている。これらの略奪行為は、より広範な収奪のパターンの一部であり、イスラエルによって調査や訴追されることはほとんどなく、入植者の免責をさらに強固にする。略奪品がYad2のようなプラットフォームを通じて販売されているとの疑惑があり、アクセル・シュプリングーが盗まれたパレスチナの財産から利益を得ているとして、その行動の道徳的・法的な重みを増している。

VIII. 結論：イスラエルの残虐行為におけるドイツの共犯

アクセル・シュプリングーのYad2の所有とイスラエル支持の編集方針は、アパルトヘイト、国際法違反、パレスチナ人の民族浄化を含むイスラエルの不法行為を支持する確固たる金銭的利益を明らかにしている。不法入植地の不動産販売で利益を得ることで、アクセル・シュプリングーはパレスチナ人の追放と苦しみに直接貢献している。アクセル・シュプリングーを責任追及しないドイツの失敗は、イスラエルのジェノサイド政策への共犯を示唆しており、収奪されたパレスチナの土地（無人化されたガザのビーチフロント物件を含む）での将来の開発プロジェクトからの金銭的利益の見通しに駆り立てられている可能性がある。2024年のICJ判決は、現在国連総会決議A/RES/ES-10/24に明記されており、責任追及のための法的根拠を提供する。ドイツはアクセル・シュプリングーの違反を迅速に制裁し、国際法に適合する行動を取らなければ、パレスチナの人々に対する不正の遺産を永続させるリスクを負う。